（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890100399		
法人名	医療法人社団　正信会		
事業所名	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑうちはら		
所在地	茨城県水戸市鯉淵町4708-41		
自己評価作成日	令和　2　年7　月　30　日	評価結果市町村受理日	令和　2　年　10　月　23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人　いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3　トモスみとビル4階
訪問調査日	令和　2　年　9　月　25　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな自然に恵まれた環境の中、季節を感じる事が出来る様戸外では、草花や植物を植え、野菜作り、メダカ飼育などしています。広いﾌﾛｱｰを活かし、体操、ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ、季節毎の行事を行い楽しみとする事が出来る様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者、職員は理念にある利用者が「いつまでも元気で過ごす事が出来るように」と日々のレクリエーション活動に体操や脳トレを取り入れたり、またおいしい食事を提供出来るよう努めたり、利用者が毎日元気で生き生きと生活が送れるよう支援し効果を上げている。
同一法人が運営するグループホームが事業所に隣接しており、合同でイベントや避難訓練を実施したり、ボランティアの受入れ等を行ったりと様々な面で協力関係を築き運営に役立てている。
協力医療機関から毎週訪問看護師による利用者の健康管理が行われたり、緊急時には24時間いつでも受け入れの連携が取られており、利用者や家族等の安心につながっている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設独自の理念を職員が共有し、見えるところに掲示し、日々実践に繋がることができる様に努めています。	理念を玄関とユニットの見やすい場所に掲示し、職員間で共有を図っている。利用者と職員はは毎日リハビリ体操や脳トレを一緒に実施、おいしい食事を食べて、元気に過ごせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はできていません	去年までは、地区の納涼祭の見学や踊り、そば打ち体験、中学校からの１日体験などを受け入れていたが、現在はコロナの影響で地域との交流はほとんど出来ていないので内部で七夕のイベントや夕涼み会で流しそうめんをしたり内部で楽しめるよう工夫して実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアの行事への参加支援、協力を得ている。運営推進会議を通じ認知症の方の理解をして頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で利用者状況、活動状況の報告し、意見を聞き参考にし、話し合いをしながら取り組み、介護の向上、現場に活かせるように努めています。	家族等の代表や市職員、地域住民等が参加して開催している。地域住民からは地域での出来事の報告があるほか、熱中症やコロナ対策について意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での交流はできていますが、今後も積極的に訪問、相談をしていき協力関係を出来る様に努めていきたいとおもいます。	市の担当者が推進会議に出席しているほか、地域包括支援センターで実施される事例検討会で意見交換をしたり、市の地域密着型事業所の協議会での情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状玄関の施錠をしていますが、ご家族に、ご理解、ご協力いただいています。身体拘束に関する勉強会を行い、施設内にて共有しています。	運営推進会議で毎回議題に出して話し合っているほか、職員のミーティング時にも話し合っている。外部研修を年1回受けている。マニュアルを作成し、見直しも行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃から、職員（夜勤者）間でミィーティグを行い虐待の有無がないか注意を払い意識するようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の支援を頂いている利用者様がおります。個々の必要性を関係機関と話し合いながら活用し、支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学をしていただき、十分な説明の上、納得していただいてからのご利用開始としています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が来所された際、意見を促したり、意見交換を行っています。ご家族、利用者様との会話の中から吸い上げ、反映できるようにしています。意見箱の設置をしています。	重要事項説明書に複数の苦情受付機関を明記している。コロナウイルス感染症予防の為に現在は面会はできない状況であるため、家族等の意見や要望は電話で聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部での定例会議を現場に知らせ、ミーティングにおいて、 職員意見提案に耳を傾けそれをいかしていける様つとめています。	管理者は日頃から職員の意見をくみ取れるよう努めているほか、月1回グループホーム全体の幹部会議で意見や要望を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望休を聞きシフトに反映しています。各職員助けあいながら仕事ができる様配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修等を受けられる様シフトの確保、配慮しています。研修開催の案内が見られるようにしてます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村の福祉活動に参加し同業者の方との交流をはかれる様にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ご本人から出来るだけ沢山の情報を得られる様聞き取り、傾聴しながら（言いやすい環境を作り）不安の無い安心した生活が出来る様努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に家族の思いや、要望を聞き信頼関係が築ける様に努めています。又、職員間で共有し支援できる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、それぞれの意向を伺い相談し、ニーズに応じた「今出来る事」の支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事はしていただき、出来る事が本人の喜びとなる様労いながら共に暮らす者としての意識が持てる様、良い関係となる様に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを、ご家族にお伝えしたり、外出依頼や相談をしながら常に安心して生活できるよう電話支援を行い本人をご家族と支えていける様努めています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば面会や外出、外泊が出来る様支援しています。	基本情報で利用者の友人関係などを把握している。家族等と通院の帰りに馴染みの理容室で散髪をしたり、お盆やお彼岸等に墓参りをするなど、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、お茶、レクリエーション等を提供し共有の場でのトラブル防止に努めると共に安心出来る環境作りに配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時は、死亡か特老、療養型への移動となる為退去後の支援はありません。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から本人の希望、思いを把握できる様な会話に努めています。	意思疎通の困難な利用者には動作や表情、筆談で把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、本人に聞いたり、サマリーをいただく等、把握に努めています。日々の会話の中で信頼関係を築き時間を掛けて把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操やレクリエーション、外気浴時現状の把握に努め、介護記録、もお仕送りで総合的に共有し、把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中で本人、家族の思いに添える様な介護計画を作成する様努めています。	家族等の意向や医師の意見をもとに作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、基本1年で見直しを行っている。退院時や状態に変化がある場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気付き、変化を個人記録に記入し、申し送りで職員間、情報を随時共有する事で反映出来るように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じた柔軟なサービスが出来る様、話し合いを行いサービスの多様化に取り組んいます。院外受診支援は家族の協力のもと行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心したより豊かな生活をするために地域の方々に協力を頂いて行事等を行い、楽しみのある生活が出来る様支援しています。訪問歯科、訪問理容をお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院をかかりつけ医とし受診結果に変化があった際はその都度家族に報告をしています。希望に応じ、家族の協力を得、お願い、他病院受診の支援をしています。	事業所は入居時にかかりつけ医への受診を説明し、家族等の付き添いで受診している利用者もいる。協力医療機関への受診時は職員が付き添っている。医師とは看護サマリーを基に情報をやり取りしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違うご様子の時は、看護師に報告、相談し、健康管理やケアについて指示を仰ぎ適切に行える様支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して療養出来る様、情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていませんが要望があればできるだけホームで過ごす事が出来る様に支援しています。	看取りを行わない事業所である。重度化に関する同意書があり、契約時に説明をし、同意を得ている。訪問看護師のアドバイス等を受け、重度化の見極めに役立てている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時看護師の指示を受け習得出来る様しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っています。隣接ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑと合同で実施、実施後、反省会で、次回に向けた課題を話し合い、記録している。	夜間や地震を想定した避難訓練を行い、訓練後は反省会を行い課題について話し合っている。災害に備えた備蓄品を管理している。近隣住民へは災害時協力の呼びかけを行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、一人一人に合わせたコミュニケーションを大切にし、プライバシーに配慮した対応に努めています。	利用者に対する言葉遣について、語尾が強くなった時など職員で注意していく雰囲気は出来ているが、利用者への言葉遣いや接遇などの研修を実施するまでには至っていない。	定期的に人権尊重や守秘義務についての研修を実施することを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	沢山のお喋りの中から本人の思い、考えを伺える様努め、思いを表せ満足していただける様な働き掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人のペースに添って見守りながその人らしい生活が送れる様支援します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪にてカットして頂き、身だしなみもご本人の意向に沿った整容に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人に応じた調理法、盛り付け、施設内敷地で収穫、近隣の方にいただいた野菜など利用し、提供職員と一緒に食卓を囲み楽しい食事を心がけています。	法人の管理栄養士が献立した食材が届き、職員が利用者にあった味付けをしている。季節ごとの行事食で、利用者が好きなものを提供している。コロナ禍で外食ができないので行事食を充実させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立に基づき調理を行い食事の摂取記録を行い刻み食などその方に応じた支援をし、体重増減など職員が把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行える様に見守り、声掛け援助し夕食後は義歯の衛生管理を支援しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターン、本人の様子を見ながら定時や定時以外のトイレでの排泄、自立に向けての支援をしています。24時間排泄記録の記入をしています。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な時間でのトイレ誘導をして排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、リハビリ体操で身体を動かす等便秘の解消に努めています。頑固な便秘には、看護師、医師に相談しながら対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日などは決まっていますがゆっくり、リラックスして入浴できる様援助しています。	入浴は基本週2回となっているが、シャワーは何時でも使用できるようになっている。季節に合わせてゆず湯、しょうぶ湯などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はリハビリ体操やレクリエーション等取入れ活動的に過ごし、昼食後の休息、休憩をしていただき、夜間良く入眠出来る様に援助しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員処方箋で服薬の薬剤を知り共有しています。誤薬の無い様お名前を確認し支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に出来ることははお手伝いをして頂き、役割のある暮らしが出来る様支援しています。季節ごとに行事を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、玄関先、駐車場にて、外気浴やラジオ体操、軽体操等を行ったりしています。	コロナ禍で外出は自粛中のため、玄関前に出てメダカの生育を観察したり、駐車場に出て体操をしたりしている。近隣の公園へ出かけることもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族とのお買いものや、必要な方には事務所にて管理を行ない、代行にて買物を職員が行っています。自己管理されている方はおりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用や、電話のとりつぎ等自由にやり取りが出来る様に援助しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、物を飾り、季節感を感じていただける様に生き物飼育（メダカ）や、野菜の栽培、収穫を行ったりしております。又音の大きさ、室温にも注意し、居心地良く過ごす事が出来る様に配慮しています。	玄関前にメダカを飼って利用者と一緒にメダカの生育を楽しんでいる。広い居間兼食堂の一角にはカラオケがある。テレビの前に3～4人座れるソファーを2脚配置したコーナーや小上がりの畳のコーナーがあったりと、利用者が好きな場所で寛げるようになっている。廊下には七夕や納涼祭等の写真や折り紙作品が飾られ、利用者がいつでも眺められるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ﾃﾚﾋﾞの位置やソファの位置に配慮し長座布団を敷いたり、いごごち良くお好きな場所で過ごす事のできる様支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が自由に使用しております。本人の使い慣れた物の持ち込みや、飾るなど過ごしやすい工夫をしています。ご家族様にも協力、ご提案させていただいております。	居室にはエアコンやベッド、洗面台等が備え付けられている。家族等の協力の下に、利用者の使い慣れた品物を持ち込んで、利用者好みの居室つくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すり等の設置がしてあるので本人の力量の応じた生活が出来る様援助しています。夜間時、廊下、トイレの灯りを付けておくなどしております。モップ掛け、ﾃｰﾌﾞﾙ拭きなどお願いしています		

（別紙４（２））

目標達成計画

事業所名　　グループホームうちはら
作成日　　令和　　２年　　１０月　　２１日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	人権尊重や守秘義務についての研修が必要である	一人ひとりの人権を尊重し、支えていける様にする。接遇などもきちんとみに付ける。	定期的に勉強、研修を行っていく。	３～１２ヶ月
2					ケ月
3					ケ月
4					ケ月
5					ケ月

注１）項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は、行を追加すること。